

HOSEI Hi-DXによる 個別最適化された学び～法政モデルの実践

教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
センター長 山本 兼由
(生命科学部 教授)



本日のトピック

(1) 法政大学DX推進計画

(2) HOSEI Hi-DXによる個別最適化された学び

～法政モデルの実践



本日のトピック

(1) 法政大学DX推進計画

(2) HOSEI Hi-DXによる個別最適化された学び

～法政モデルの実践



約束

自由を生き抜く実践知

法政大学は、近代社会の黎明期にあって、
権利の意識にめざめ、法律の知識を求める
多くの市井の人びとのために、
無名の若者たちによって設立されました。

校歌に謳うよき師よき友が集い、
人びとの権利を重んじ、多様性を認めあう「自由な学風」と、
なにものにもとらわれることなく公正な社会の実現をめざす
「進取の気象」とを、育んできました。

建学以来のこの精神を受け継ぎ、
地球社会の課題解決に貢献することこそが、本学の使命です。

本文

その使命を全うすべく、
多様な視点と先見性をそなえた研究に取り組むとともに、
社会や人のために、真に自由な思考と行動を貫きとおす
自立した市民を輩出します。

地域から世界まで、あらゆる立場の人びとへの共感に基づく
健全な批判精神をもち、
社会の課題解決につながる「実践知」を創出しつづけ、
世界のどこでも生き抜く力を有する
あまたの卒業生たちと力を合わせて、
法政大学は持続可能な社会の未来に貢献します。

自由の尊重／進取の気象 自由と進歩 実践知

法政大学ダイバーシティ宣言

ダイバーシティの実現とは、社会の価値観が多様であることを認識し、自由な市民が有するそれぞれの価値観を個性として尊重することです。

人権の尊重はその第一歩です。性別、年齢、国籍、人種、民族、文化、宗教、障がい、性的少数者であることなどを理由とする差別がないことはもとより、これらの相違を個性として尊重することです。そして、これらの相違を多様性として受容し、互いの立場や生き方、感じ方、考え方に耳を傾け、理解を深め合うことです。少数者であるという理由だけで排斥あるいは差別されることなく、個性ある市民がそれぞれの望む幸福を追求する機会が保障され、誰もがいきいきと生活できる社会を実現することです。

社会とともにある大学は、創造的で革新的な次世代を社会に送り出す教育組織として、また、社会の様々な課題の解決に寄与する研究組織として、ダイバーシティを推進する役割を担っています。多様な価値観を有する市民が助け合い、互いの望む幸福を実現できる社会の構築に向けて、貢献する役割を担っています。そのためには、多様な背景をもつ学生・教職員が、安心して創造的に、学び、働き、それぞれの個性を伸ばせる場である必要があります。

法政大学は、「自由と進歩」を校風とし、「自由を生き抜く実践知」の獲得に社会に約束しています。自由は特定の人間だけでなく、社会の成員すべてに保障されるべきものです。本学は、人権の尊重、多様性の受容、機会の保障を基盤にして、さまざまな国籍と文化的背景を持つ学生、教職員を積極的に受け入れ、自由を生き抜く実践知を世界に広げていくことができるよう、教育と研究を充実させていきます。

法政大学は、ダイバーシティの実現に向けて積極的に取り組んでいきます。

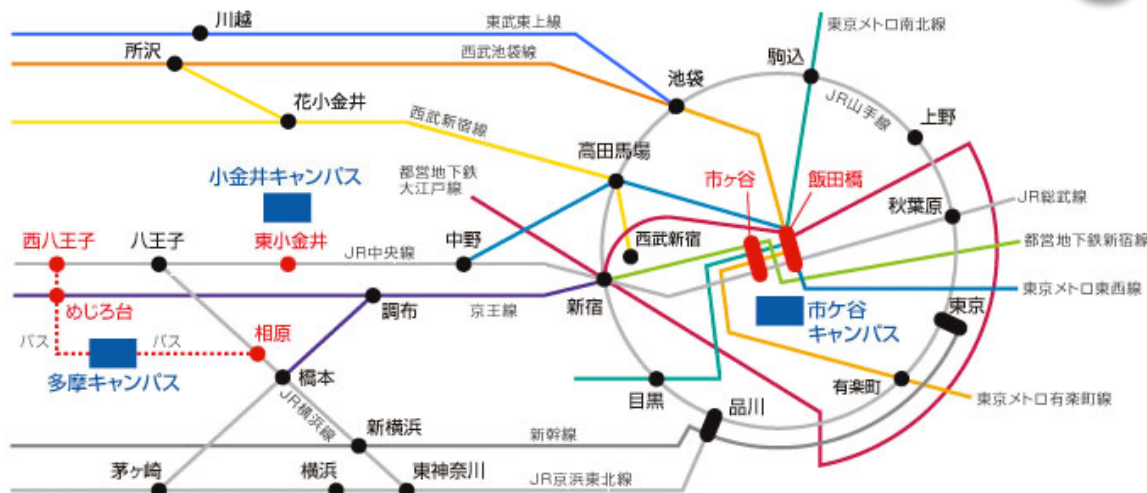
17 専門職大学院2研究科
大学院15研究科
(3インスティテュート)

3,121 名の大学院生
修士： 1,327名
博士後期：1,643名
専門職： 151名

15 15学部
通信教育課程 (3学部)

26,936 名の学部生

5,781 名の通信教育学生



773 名の専任教員

教育を中心とした内部質保証体制

3レベル

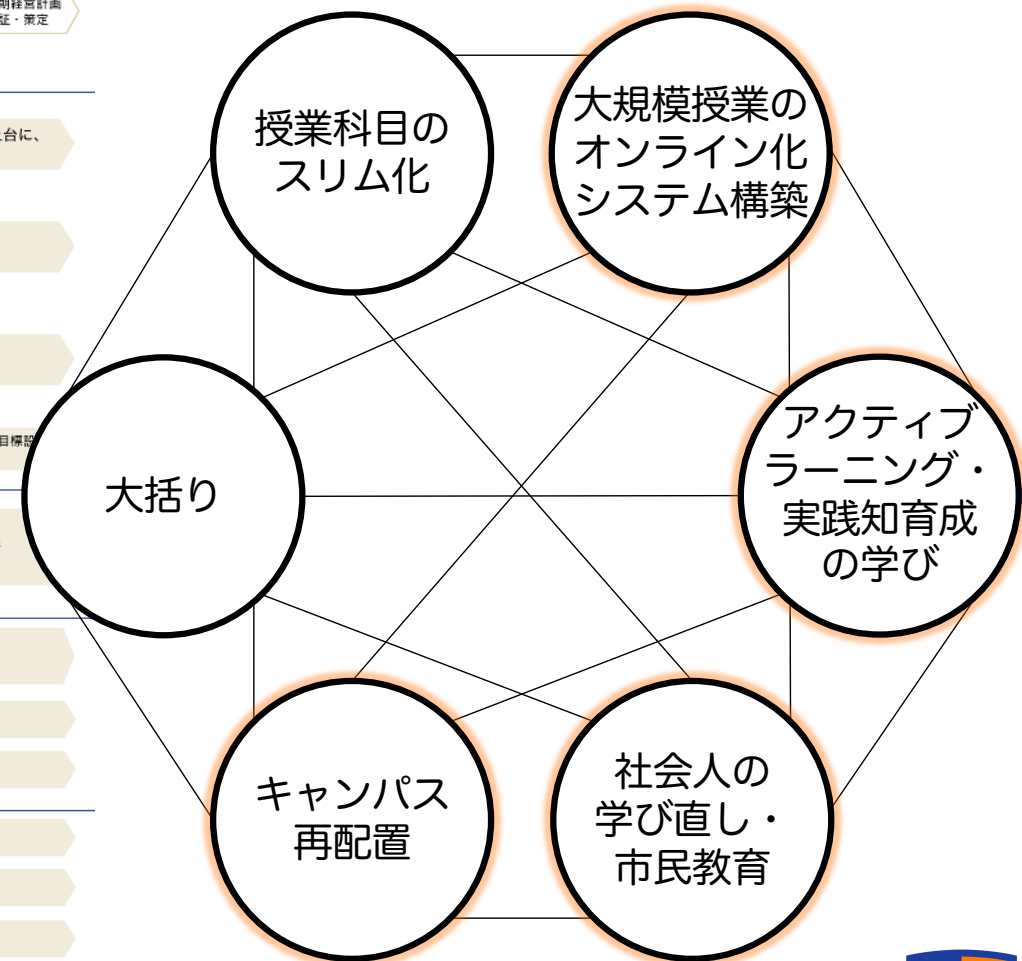




HOSEI2030 -法政大学長期ビジョン

	2014～2015年度	2016年度	2017年度	2018～2021年度	2022～2025年度	2026～2029年度
	構想策定 段階	アクション・プラン 作成段階	アクション・プラン実行 段階			
	HOSEI2030策定委員会		推進本部 設置	HOSEI2030 推進本部会議		
財政基盤確立	財政基盤検討委員会	中長期財政支出削減	中期経営計画 プランニング	第一期 中期経営計画の 実行	第二期 中期経営計画の 実行	第三期 中期経営計画の 実行
		財政支出削減（短期） 財政規律のシステム構築	中期経営計画 検証・策定	中期経営計画 検証・策定	中期経営計画 検証・策定	中期経営計画 検証・策定
教学改革と キャンパス再構築	キャンパス再構築 委員会	キャンパス再配置	キャンパス再構築部会 市ヶ谷キャンパスWG ※ 多摩キャンパスWG ※ 小金井キャンパスWG ※ 各キャンパスの短期的課題についての 取組合意・着手			
		大括り化	教学面・財政面両面での学内合意と協力を土台に、 キャンパス再構築計画の順次実行			
		授業科目のスリム化	大括り化の学内合意にもとづき、 教学再編成の順次実行			
		大規模授業のオンライン化 システム構築	HOSEI2030教学改革推進課を中心に アクション・プラン実行			
		アクティブラーニング ・実践知育成の学び	教学改革推進 →中期経営計画確定後、 特設化を検討			
		社会人の学び直し・ 市民教育	教学改革中期目標設定			
ダイバーシティ化 推進	ダイバーシティ化 委員会	ダイバーシティ化推進 （作業部会） →ダイバーシティ 推進委員会	ダイバーシティ推進委員会を中心にアクション・プランの具体化 ⇒ 関連部局での実行			
ブランディング	ブランディング 戦略会議	ブランディング推進 チーム	ブランディング推進チームが 徐々に全学実施体制構築			
		法政ミュージアムの 実現	総長室を中心にアクション・プランの具体化・実行			
		法政スポーツ強化	保健体育部などを中心にアクション・プランの具体化・実行			
憲章・ミッション・ビジョン具体化		持続可能社会構築 に向けた研究体制	研究総合本部会議を中心にアクション・プランの具体化 ⇒ 関連部局での実行			
		若手育成のための大学院 →研究所連携	研究所長会議・大学院委員会等を中心にアクション・プランの具体化・実行			
		校友ネットワークの 世界展開	卒業生・後援会連携室を中心にアクション・プランの具体化・実行			
		付属校の将来ビジョン プロジェクト	学校長会議・大学付属校協議会を中心にアクション・プランの具体化 ⇒ 関連部局での実行			
		デニユア・トラック 制度化	作業部会の継続	人事部などを中心にデニユア・トラック制度の具体化		

教学改革と キャンパス再構築



全学的デジタルイノベーションの推進

Port and Faculty Development, Hosei University

※ WGはワーキンググループの略称



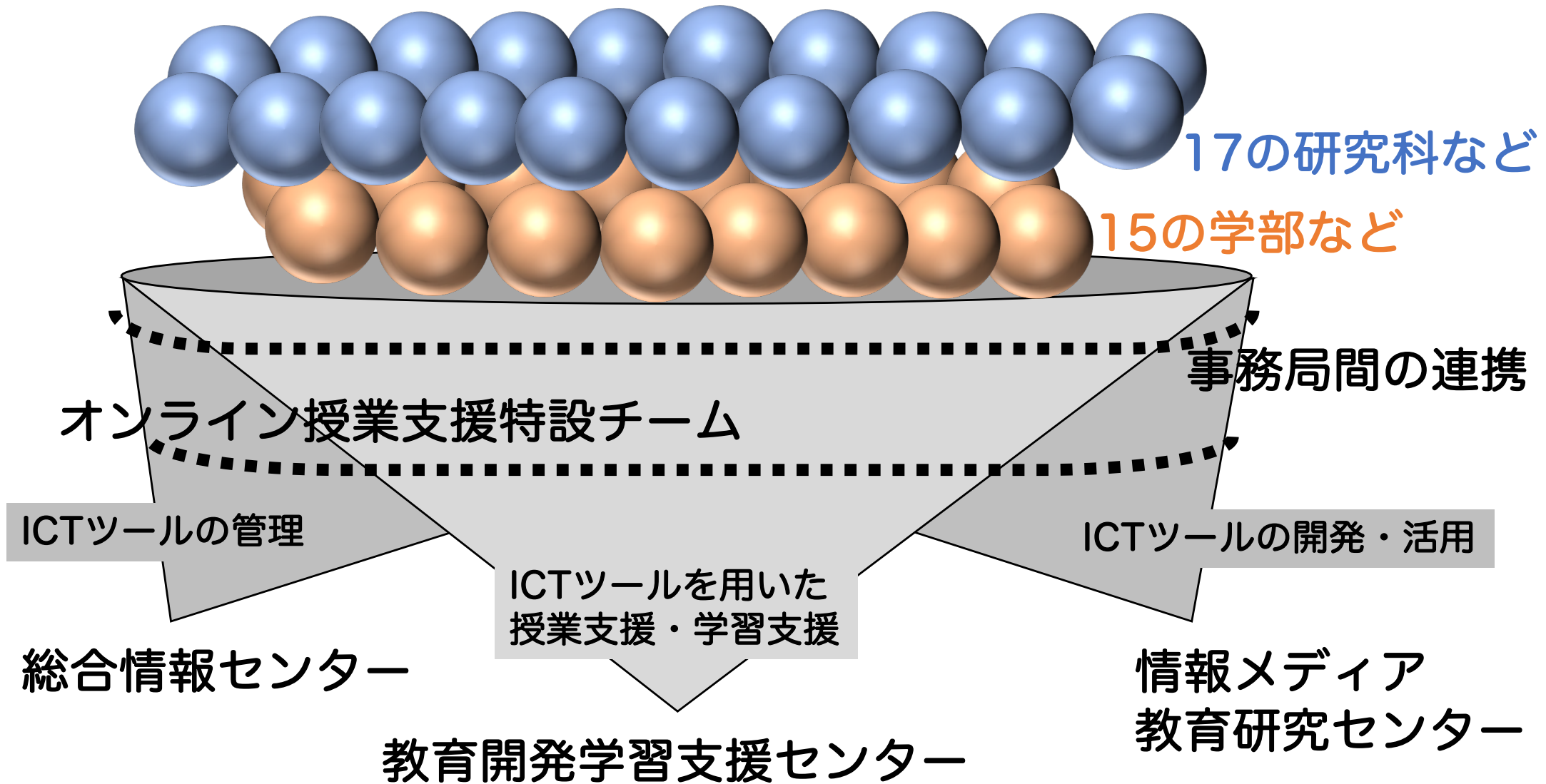


2020年4月緊急事態宣言前後の本学対応

1月	原因不明の肺炎への注意喚起（1/6） 国内初の感染者（1/16）	新型コロナウイルス肺炎 に関する対応連絡の開始（1/31）
2月	クルーズ船のクラスター（2/3） 小中高校の臨時休校（2/27）	卒業式の中止決定（2/27） 入学式の中止決定（3/6）
3月	東京五輪の延期（3/24）	2020年度学年暦の変更（3/23） ガイダンスなどの変更・延期（3/30）
4月	7都道府県に緊急事態宣言（4/7） 全国に緊急事態宣言（4/16）	春学期授業の方針（4/6） キャンパス入構の禁止（4/8）
5月	緊急事態宣言の延長（5/4） 緊急事態宣言の39県解除（5/14）	キャンパス入構禁止の延期（5/8） キャンパス入構ルールの適時発表（5/29）
6月	緊急事態宣言の解除（5/25） 都道府県間の移動自粛要請の緩和（6/19）	
7月		
8月	Go To トラベルの開始（7/22）	秋学期授業の方針（7/27）
9月	新型コロナ対策の新方針（8/28）	
10月		



各教学単位への支援体制

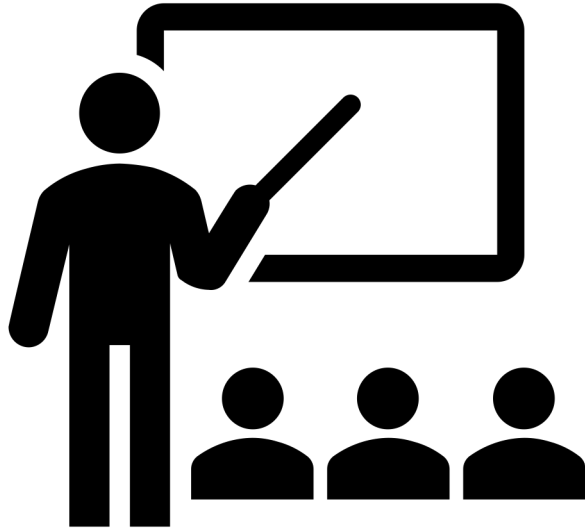




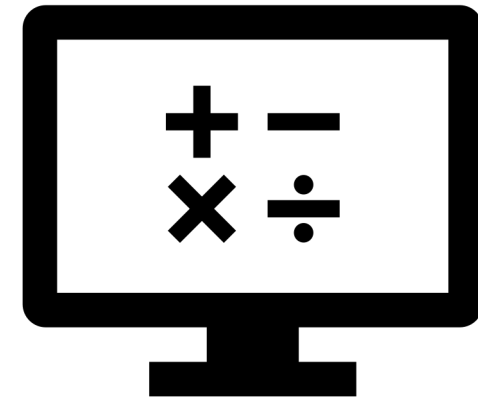
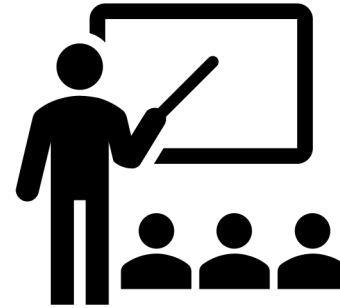
本学におけるコロナ禍での学び

対面が主体で、オンラインが補助する

対面とオンラインで主体を形成する



オンラインの
デフォルト化



FD／ラーニングサポート

- *時間の効率化
- *教育・学習の効率化
- *学生の主体性の涵養

FD／ラーニングサポート

- *時間の効率化
- *教育・学習の効率化？
→リフレクションの強化など
- *学生の主体性の涵養？
→インターフェ이스の改善
新しいコミュニティ形成など



法政大学DX推進計画

3+1 の施策

学びの質向上 ✕ 教育の高度化 ✕ 学修者本位の教育

教育環境の高度化

- ・ リアルとデジタルの長所を最大限生かした教育・学習環境の提供

対面とオンラインのベストミックスで学生の様々な活動に対応、教育学習ポートフォリオシステムの構築、個別最適化されたサービスの提供

教育(手法/内容)の高度化

- ・ 高度デジタル教育プログラムによる現実(=今)を超えた教育の実現

VR/AR技術を駆使した新たな学びの形の創出、学部教育の高度なオンライン化、海外大学等との連携プログラム、リカレント・リスキルプログラムの開発

教育支援の高度化

- ・ 統合デジタル化による高次元デジタル情報プラットフォームの構築

学修履歴・学修成果や学びの活動を一元管理、ディプロマ・インディケーターで達成度を可視化、オンデマンドシステムや授業支援システムの高度化

<共通施策>

デジタルリテラシー教育、セキュリティと個人情報の保護、デジタルデバイドの解消、諸手続きやサービスのデジタル化

全学的効果

専門知と実践知の融合/新しい学びの価値の創出/
学生生活の抜本的变化/コミュニケーションモデルの進化



法政大学DX推進計画

3+1 の施策

学びの質向上 ✕ 教育の高度化 ✕ 学修者本位の教育

教育環境の高度化

- ・ リアルとデジタルの長所を最大限生かした教育・学習環境の提供

対面とオンラインのベストミックスで学生の様々な活動に対応、教育学習ポートフォリオシステムの構築、個別最適化されたサービスの提供

教育(手法/内容)の高度化

- ・ 高度デジタル教育プログラムによる現実(=今)を超えた教育の実現

VR/AR技術を駆使した新たな学びの形の創出、学部教育の高度なオンライン化、海外大学等との連携プログラム、リカレント・リスキルプログラムの開発

教育支援の高度化

- ・ 統合デジタル化による高次元デジタル情報プラットフォームの構築

学修履歴・学修成果や学びの活動を一元管理、ディプロマ・インディケーターで達成度を可視化、オンデマンドシステムや授業支援システムの高度化

<共通施策>

デジタルリテラシー教育、セキュリティと個人情報の保護、デジタルデバイドの解消、諸手続きやサービスのデジタル化

HOSEI Hi-DX

全学的効果

専門知と実践知の融合/新しい学びの価値の創出/
学生生活の抜本的变化/コミュニケーションモデルの進化



本日のトピック

(1) 法政大学DX推進計画

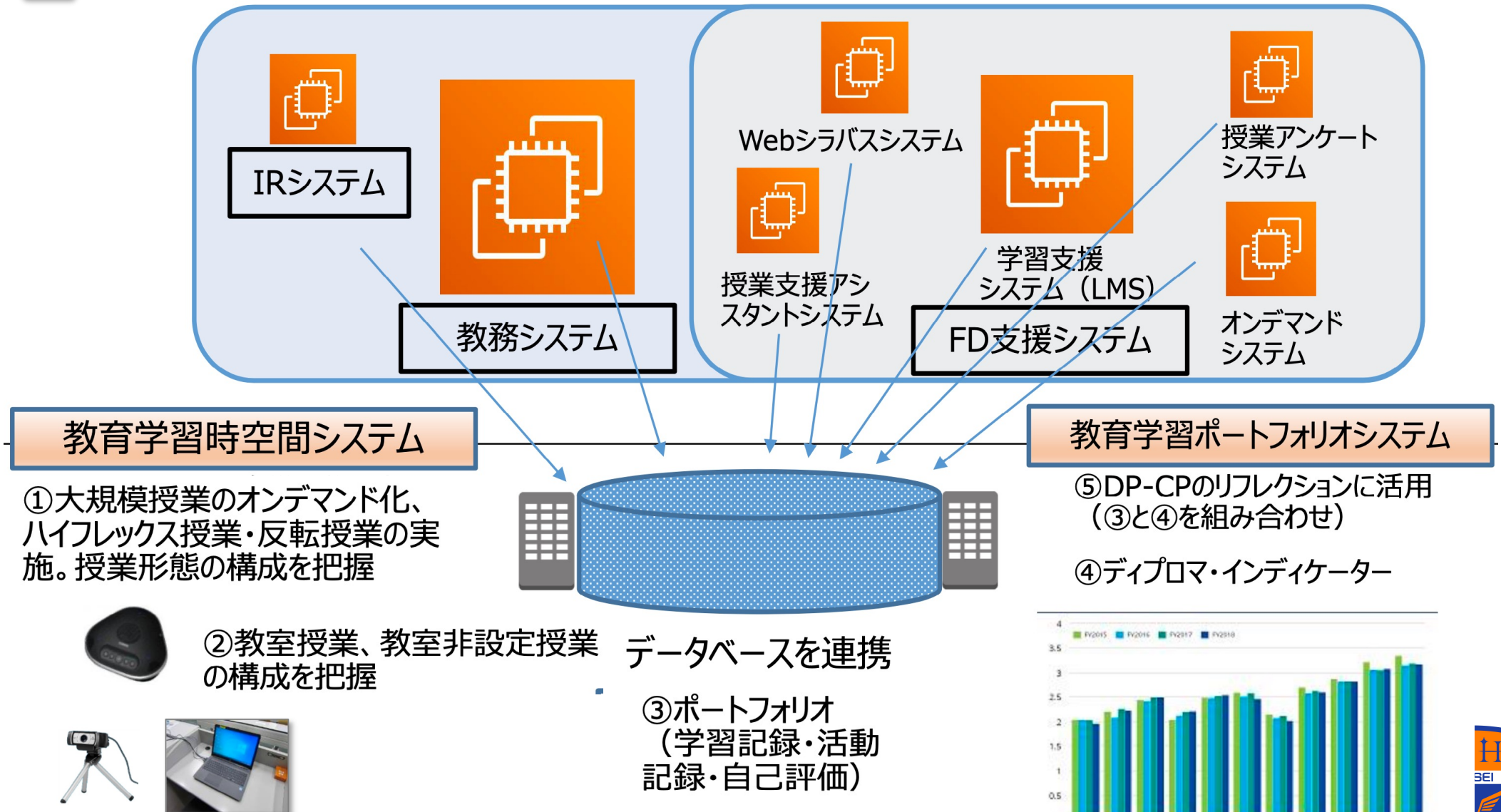
(2) HOSEI Hi-DXによる個別最適化された学び

～法政モデルの実践



HOSEI Hi-DXの2つのシステム

2つのシステム





HOSEI Hi-DXによる学びの個別最適化

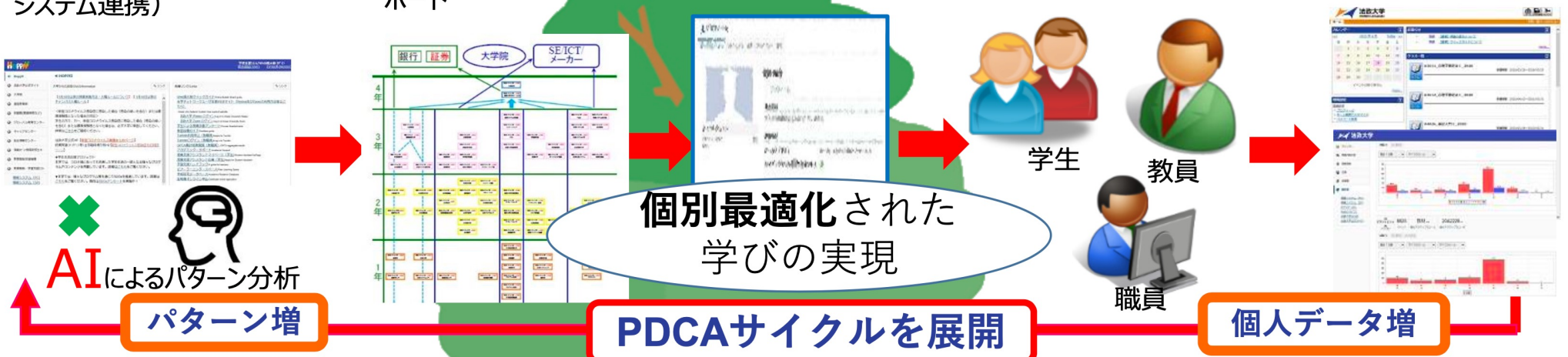
①システムユーザビリティ向上と
多様なデータ分析（LMS起点の
システム連携）

②個々の学生に応じ
た履修モデル作りのサ
ポート

③学習カルテの作成・活用
（学習記録・活動記録）

④成績不振者等への
指導・オンライン面談

⑤学習カルテの充実化
（指導・対応履歴の蓄積）



法政モデルの特徴

- ✓ 先導的・先駆的 DXモデル構築
（3万人の学生のビッグデータ活用）
- ✓ 他大学の学生への普及
（他大学と成果の共有）
- ✓ 大学ビジョン・アクションプランへのビルトイン
（事業継続性・発展性）

HOSEI Hi-DX

教育学習
時・空間システム

教育学習ポート
フォリオシステム

実施体制

総長・副学長

学部・研究科

教育開発・学習支援センター

総合情報センター
（インフラ）

情報メディア
教育研究センター
（教育ツール支援）

大学評価室
（IR）



HOSEI Hi-DXが支援する体系

1 つの憲章

17 研究科など

15 学部

30,000 名の構成員

15,000 超の科目

アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシー

全学レベル

学部・研究科レベル

授業レベル

先進的・先駆的DXモデル
他大学との連携
ビジョン・アクションプランの支援

学習カルテの活用
カリキュラム履修モデルの検証
カリキュラム運営の点検
DP-CPリフレクション

学習カルテの作成
学習カルテの活用
学習カルテの充実
ユーザビリティの向上

教育学習
ポートフォリオシステム

カリキュラムにおける授業形態の把握
教育学習時空間システム

大規模授業のオンデマンド化
ハイフレックス授業の実施
反転授業の実施
授業の教室設定

HOSEI Hi-DX

教育支援の高度化

教育環境の高度化

教育手法・内容の高度化

法政大学DX推進計画

共通施策

HOSEI Hi-DXが実現する教育の高度化

学 生

学習履歴（履修・成績）
課外活動
履修やキャリア相談履歴
各種資格取得
外部試験スコアなど

個別最適化された学び

学習成果の可視化による
到達度の実感・振り返り

Input

Output

HOSEI Hi-DXプラットフォーム

科目特性・データ
ディプロマポリシー
ナンバリング
シラバス
履修モデル
授業改善アンケート

Input

Output

学生の学習状況
・成果のフィードバック
ディプロマポリシーの見直し
カリキュラム改革
教育方法の改善
教育環境の整備
成績不振者指導
キャリア支援

PDCA

データに基づく検証

大学・学部